

二〇二五年度

入学試験問題

(二月一日午後)

国語

- 一 開始の合図があるまで問題用紙・解答用紙にふれないでください。
- 二 開始の合図があったら、最初に問題用紙六ページ、**解答用紙二枚**を確認してください。
- 三 解答用紙に受験番号と氏名を記入してから始めてください。
- 四 問題についての質問は受け付けません。印刷のはっきりしないところや用事があるときは、声を出さずに手をあげてください。
- 五 字数が指定されている問題は、記号・句読点も一字として数えてください。
- 六 問題用紙は回収しません。
- 七 筆記用具の貸し借りはしないでください。
- 八 試験時間は五十分です。終了五分前になったら知らせます。
- 九 答案を書き終わっても座席からはなれないでください。

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

日本人にとって、いちばん使にくい言葉は「ノー」なのである。むろん、日本人も「いいえ」とか「いや」とかいうが、どんな否定の言葉も、「ノー」のように、はつきりしていない。「ノー」というのは、きつぱりと否定することである。はつきりと断わることもある。ところが、日本人はどうもそれが苦手なのだ。げんに「きつぱりと断わる」というような表現がその間の心情をよく語っている。断わるというのは、そもそも「はつきりと断わる」ことではないか。それなのに、「きつぱり」とか「はつきり」などという限定詞をつけるのは、日本人にとって「断わる」ということが「きつぱり」「はつきり」した否定を意味していないということを語っている。①もし、そんなふういきつぱり断わったなら、相手はつれないと思うだろう。「すげなく断わられた」と思われるにちがいない。そんなふうに思われたらやりきれないので、まずは一応断わっておくのだ。つまり、いくばくかの可能性を残しておくわけである。そして、徐々に相手にこちらの否定の意志を感じとらせるといいうやり方を取る。

このような日本のな心情は、たとえば新聞の裁判記事にもよくあらわれている。一審、二審で有罪となった被告が上訴したとき、高等裁判所、あるいは最高裁がその上訴を棄却すると、新聞の見出しは「門前払い」という表現になる。【ア】

「門前払い」というのは江戸時代の刑罰のひとつで、刑のなかで最も軽いとされている。すなわち、平民の場合は奉行所の門前から

追放し、武士の場合は禄を没収して屋敷の門前から追い払うという刑である。だが、この言葉にはもうひとつの意味があり、来訪者に会わずに追いかえずという仕打ちにも用いられる。新聞が「門前払い」と書くとき、その意味はむろん後者のことで、つまり「すげなく断わる」に通じている。【イ】

裁判所が控訴を棄却するというのは、とうぜん「ノー」という判断を下したうえでのことであるにもかかわらず、それを「門前払い」というのは、言外に、すげなく却下したという心情がこめられている。これを見ても、日本人にとって、「ノー」、すなわち「きつぱり断わる」「はつきり否定する」ことが、いかに相手の心を傷つけることか察しがつこう。【ウ】

ある販売会社の壁に、こんな標語が貼ってあるのを見かけた。③「セールスは断られたときに始まる」。それを見て私は、あっぱれな精神！ と大いに感心したのだが、同時に、なんと日本的なスローガンだろうか、と思った。なぜなら、この標語は「日本人にとって断わるということは、けっしてきつぱりと断わることではない」といつているように思えたからである。もし断わることが、きつぱり断わるのと同義であるなら、こんな標語は成り立つわけがない。いくら説得しても、客は最後まで「ノー」というであろうからだ。ところが、こうしたスローガンが立派に通用し、社員を鼓舞しているところを見ると、日本人の否定は完全な否定ではなく、あくまで一応の否定であって、その否定はいつか肯定に転じる可能性を持っていることが、わかる。別言すれば、日本人にとってきつぱり断わ

ること、最後まで「ノー」といいつづけること、それがいかに困難であるか、この標語が見事にいい当てているのである。

このように、日本人は完全な否定を言明することをためらい、つねにいくばくかの肯定の余地を残すのを美德と考えるから、外国人とのあいだでしばしばトラブルが起きる。たいていの民族は、否定は否定、肯定は肯定と、それこそイエス、ノーをはっきりと区別している。否定だか肯定だかわからないと、いらいらし、勝手にどちらかにきめて行動する。すると日本人はびっくりして、じつはそうではないんです、などと訂正する破目になる。外国人のあいだで通念のようになってい日本人は不可解だというイメージは、このよう<sup>④</sup>な日本人の否定のあいまいさに大半を負っている。

そのいい例が「結構です」という慣用語であろう。この場合の「結構」というのは「申し分のない」「たいへんよい」という意味であるが、同時に拒絶の意志を表明する際にも用いられる。この場合は、「自分はこのままで充分満足しているので、これ以上は望みません」ということであり、「結構」本来の意味とけっして矛盾した表現ではないのだが、「いかがですか？」と何かをすすめられ、「結構です」(ヴェリイ・グッド)といえは、外国人ははつきりとした肯定と受けとるにちがいない。

では、なぜ日本人はそのようなあいまいな否定の表現を使うのか。きっぱりと断わるのをよしとしないからだ。肯定とか否定というのは、あくまで主体の意志や判断について言明されることなのであるが、日本人はその際にも相手とのかかわりあいを使い分けるのである。

「結構」とは「充分に満足すべき状態」を意味し、したがって、それが(あ)のことがらについて用いられるときには「すばらしい」の意になり、(い)について使うときには「充分満足しているのだから、これ以上は望まない」という婉曲な拒絶の意となる。だから「結構です」といえば「ノー」であり、「結構ですな」というと「イエス」となる。「結構ですな」と「ね」を加えると、それは(う)についての言明になるからである。つまり、それは「あなたの申し出は結構なことですね」ということであり、したがって、「遠慮なく頂戴いたしましょう」ということになるのだ。

長く日本に住んでいるベルギー人の神父で言語学者でもあるグロータース氏が、笑いながら私に教えてくれたことがある。中国人と日本人は話しているところを見れば、すぐに区別がつく、というのである。

「どんな点で区別できるのですか」ときくと、グロータース氏はこういった。

「会話のあいだじゅう、うなずいているのが日本人、けっして首を動かさないのが中国人ですよ。それですぐわかるんです」

いわれてみれば、たしかにそうである。日本人は相手が何かを言明しないうちから、もううなずいている。しかし、それはかならずしも相手の意見に賛同しているわけではない。「私はあなたのいうことを、ごらんのように傾聴していますよ」といつているにすぎないのだ。(え)、日本人のうなずきは肯定とはかぎらない。そこで外国人とのあいだにまた誤解が生じる。相手は日本人がうなずい

ているので、自分の意見に共鳴していると受けとってしまうのである。

「ノー」にあたる日本語が「いいえ」なら、「イエス」は「はい」とか「ええ」ということになる。だが、この肯定の表現も否定の言葉と同様に「きっぱりとした肯定、ないし同意」とはかぎらない。日本人は肯定においてもきわめてあいまいで、否定の余地をかならず残しておくのである。(お)ということとは、日本人ならざらにあることではないか。日本人は約束を守らない、ずるい、といったイメージは、日本人のこのような肯定のあいまいさにも起因しているのだ。

考えてみると、生きるということは肯定と否定から成り立っているといえよう。人生とは肯定と否定とで織り出されている行為の集積なのである。だとすれば、その肯定と否定とが、ともに(か)であるということとは、その人の人生そのものが(か)——ということになる。日本人が地球社会で生きてゆくためには、そして、各人がメリハリのある人生を送りたいというのなら、この際、あらためてイエスとノー、「はい」と「いいえ」をきっぱりといいきる言語習慣を身につける必要があるのではなからうか。

(森本哲郎『日本語 表と裏』)

注 上訴：裁判の判決に不満があるときに、さらに上級の裁判所にうったえること。

棄却：裁判所がうったえを取り上げないこと。

禄：武士が主君から受けとった給与。

問一 本文中からは、次の一文が抜けています。どこに入りますか。本文中の【ア】～【ウ】から一つ選び、記号で答えなさい。

日本人はあくまで肯定をよしとする民族なのである。

問二 ——線部①「もし、そんなふういきつぱり、断わつたなら、相手はつれないと思うだろう。『すげなく断わられた』と思われるにちがいない。」とありますが、「つれない」、「すげなく」に共通する意味を答えなさい。

問三 ——線部②「新聞の見出しはたいい『門前払い』という表現になる。」とありますが、それはなぜですか。最もふさわしいものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 被告人の罪が大変軽いということを示すため。
- イ 判決が逆転するいくばくかの可能性を残しておくため。
- ウ 被告人の希望が否定されたことを遠回しに示すため。
- エ 判決が読者により分かりやすく伝わるようにするため。

問四

——線部③「セールスは断られたときに始まる」とありますが、なぜそのように言えるのですか。解答用紙（〜から）に合うように、本文中から二十一字で抜き出して答えなさい。

問五

——線部④「日本人の否定のあいまいさ」とありますが、どのような態度のことですか。次の（A）〜（C）にあてはまる五字の言葉を、それぞれ本文中から抜き出して答えなさい。

（A）をせずに、まず一応断って（B）を残し、そして、徐々に相手にこちらの（C）を感じ取らせるといふ日本人の態度のこと。

問六

本文中の（あ）〜（う）には「自分」または「相手」のいずれかが入ります。「自分」が入るものにはア、「相手」が入るものにはイを答えなさい。

問七

本文中の（え）にあてはまる言葉として最もふさわしいものを、次のア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア したがって      イ だが  
ウ なぜなら      エ たとえば

問八

本文中の（お）にあてはまる言葉として最もふさわしいものを、次のア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「いいえ」と伝えられず、自分の思うとおりの行動もできな

イ 「はい」「いいえ」をはっきり伝えず、自分の思うとおりに行動する

ウ 「いいえ」と一度断っておきながら、相手のいうとおりに行動する

エ 「はい」「はい」といいながら、相手のいうとおりに行動しない

問九

本文中の（か）に共通してあてはまる四字の言葉を本文中から抜き出して答えなさい。

問十

波線部「あらためてイエスとノー、「はい」と「いいえ」をきっぱりといいきる言語習慣を身につける必要がある」という筆者の主張に対し、あなたはどのように考えますか。自身の経験を踏ま<sup>ふ</sup>えながら、二百字以内で記述しなさい。

二

次のカタカナの文章を読んで、漢字とひらがなと読点を正しく用いて書き直しなさい。

トウキョウゴリンノカイカイシキデハキョウギノナイヨウヲカンタンナキゴウデヒョウゲンシタエンシユツガワダイニナリマシタ。コレハロクジユウネンマエノトウキョウゴリンデハジメテツクラレテイライゴリンノタビニカイサイコクデドクジノシンカヲトゲゲンザイモセカイジュウノゲンゴノヒトニヒトメデキョウギヲワカリヤスタツタエルタメニチヨウホウサレテイマス。

三

次の(1)～(5)の——線部の漢字をひらがなに、(6)～(10)の——線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- (1) 端午の節句を家族で祝う。  
 (2) 勇者は、ひどく赤面した。  
 (3) 健康に資する食事を心がける。  
 (4) 体育と勉強は教育の両輪を成す。  
 (5) ストーブで暖をとる。  
 (6) 窓からのケシキをのんびり眺める。  
 (7) クダモノならなんでも好きだ。  
 (8) 彼女にはテンセイの才能がある。  
 (9) カイユウギヨを観察する。  
 (10) 琵琶湖はシガケンにある湖だ。

四

次の三字の漢字は、上の二字と下の二字がそれぞれ別々の熟語になっています。例にならって□にあてはまる漢字をそれぞれ一字ずつ答えなさい。

(例) 足 } あしおと  
音 }  
色 } ねいろ

(4) (1)

子 鉄  
□ □  
給 筋

(5) (2)

骨 円  
□ □  
紙 心

(3)

羊 □  
糸



